

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	諏訪郡富士見町立 富士見小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	3	2	2	2	17	27
児童数	89	83	69	86	75	70	6	478	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

一人ひとりが意欲的に学びながら、分かる喜びを実感できる授業の創造

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- ・2年生・算数  
児童の理解の状況に差が出やすい教科・学年であるため、個に応じた学力の評価を生かした指導の改善を図るべく研究に取り組む。
- ・3年生・国語  
日常的な作文指導に関する研究実績があるため、国語学習の「書く」に関する領域を中心に、教材化のプロセスに関する研究に取り組む。
- ・5年生・国語  
これまでの研究成果をもとに、国語課題別少人数学習における学習方法や指導体制の改善を図るべく研究に取り組む。

## (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究テーマ 「一人ひとりが意欲的に学びながら、分かる喜びを実感できる授業の創造」 昨年度実施した少人数学習での具体的な成果をもとに、上記の研究テーマを掲げ、児童に基礎・基本の学力が確かに身に付く指導のあり方について、後述する3点から実践的な研究を行う。</p> <p>研究の見通し 1年次；日々の教育実践や3点のサブテーマに沿った実践研究から導き出した仮説をもとに実証授業を行う。そして、そこでとらえた子どもたちの具体的な学びの姿を、実証仮説とリンクさせながら年度末に要件としてまとめていく。 全体構想(学力向上を目指した富士見小プラン)を構築し、教育課程全体のなかでテーマの具現を図る。 平成15年度からの実施校の公開に参加し、次年度の本校の研究発表会の具体的なあり方を探る。</p> <p>2年次；1年次の成果と課題をふまえながら研究発表会に向けての準備を進め、さらに実践・実証を重ねる。</p> <p>研究の内容・方法 全体構想を構築し、以下の3点を柱に研究を推進する。 「個に応じた学力の評価を生かした指導の改善について」 評価と指導の一体化や個々の課題把握のあり方を研究の視点とする。低学年の算数学習や5・6年生算数少人数学習から導き出した仮説をもとに、2年生算数 単元『ちがいをみて』で実証を試みる。 「個に応じた指導のための学習方法・指導体制の工夫改善について」 国語学習における課題別学習のあり方を研究の視点とする。高学年の国語少人数学</p>
--------	---

習から導き出した仮説をもとに、5年生国語課題別少人数学習 単元『わらぐつのなかの神様』で実証を試みる。  
「教材化のプロセスについて」  
国語学習の「書く」に関する領域を中心にして研究を進めている。3年生の日常的な作文指導や2年生の実践から導き出した仮説をもとに、3年生 単元『せつ明書を作ろう』で実証を試みる。(2/5 実証授業実施予定)

平成16年度  
**研究テーマ**  
「一人ひとりが意欲的に学びながら、分かる喜びを実感できる授業の創造」  
昨年度に引き続き上記のテーマを継続研究する。1年次の成果と課題をふまえながら研究発表会に向けての準備を進め、児童に基礎・基本の学力が確かに身に付く指導のあり方について、さらに実践・実証を重ねる。  
**研究の見通し**  
3点のサブテーマに沿った実践研究や実証授業から導き出した要件をもとにさらに実践・実証を進め、研究発表会の準備を進め公開をむかえる。  
**研究の内容・方法**  
全体構想のもと、平成15年度研究の3点の柱を中心に研究を推進する。そして、研究発表会に向けて、公開授業の準備を進める。  
柱の と については、さらによりよいあり方を検討しつつ全校体制での実践に結びつける。また については、課題別学習を少人数学習該当学年外や国語・算数学習以外の教科実践へと広げていく。

### (3) 研究体制

**研究体制組織図**  
**重点研究としての位置付け**

<p>学力向上フロンティアグループ  (全体主任1名)</p>	}	<p>「学力の評価を生かした指導の改善」研究グループ  (グループ主任、他4名 計5名で構成)</p> <p>「学習方法・指導体制の工夫改善」研究グループ  (グループ主任、他4名 計5名で構成)</p> <p>「教材化のプロセス」研究グループ  (グループ主任、他3名 計4名で構成)</p>
-------------------------------------	---	---

必要に応じて全体会を行う。  
例；「学力向上フロンティア事業」に関する学習  
各グループの指導案作成に関するグループ内事前審議 など

**校内特別委員会としての位置付け**  
学力向上委員会(委員長；教頭 他4名 計5名で構成)

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

全体構想を構築したことで、本校の教育課程のなかに学力向上を目指した富士見小プランが具体的に位置付き、工夫改善のための視点が明らかになってきた。  
「個に応じた学力の評価を生かした指導の改善について」の研究から

- ・単元や1時間の授業でのつけない力や評価の観点を明確にすることで、学習内容を焦点化した展開や学習カードの工夫ができるようになり、意欲的に学習する姿につながった。
- ・課題把握の場面での評価を入れた学習カードの導入により、あらかじめ予想したつまずきへの様々な手だてをもとに、つまずいている児童に対してタイムリーに手だてを講じることができた。このことは、児童個々が、分かる喜びを実感していく姿につながった。

- 「個に応じた指導のための学習方法・指導体制の工夫改善について」の研究から
- ・子どもの初発の感想や疑問をもとに、子どもの意識にあった学習課題を決めだしたこと、各グループの課題や学習活動の見通しをもたせて課題を選択させたことは、前向きに学習課題を選び意欲的に学習する姿につながった。
  - ・子どもの選択理由や願いなどを大切にして学習を進めていくことが、自ら選択して学習することのよさを感じ取り、満足感を得ることにつながった。
  - ・少人数学習であることのよさや仲間との関わりを大事に考えた学習を展開したことが、意欲的に楽しく学習する姿につながった。

## 2. 今後の課題

全体構想（学力向上を目指した富士見小プラン）をさらに実践的なものにしていく。本年度の研究で明らかになった成果を、どのようにして全校体制での実践に結びつけていくか具体的な試行をしていきたい。

- 「個に応じた学力の評価を生かした指導の改善について」の研究から
- ・1時間の授業のなかで個々についた力がより確かなものであるかを見極めていく評価のあり方を明らかにするとともに、評価と指導の一体化についてさらに研究を進めていきたい。
- 「個に応じた指導のための学習方法・指導体制の工夫改善について」の研究から
- ・自己評価のあり方とそれを生かした学習課題の決めだしやグループ編成の仕方について、さらに研究を進めていきたい。
  - ・国語課題別学習を視野に入れた指導計画を作成する。学習内容を網羅しつつ、各領域を効果的に学習できるような年間指導計画作成を進めていきたい。
- すくすくタイム（基礎的な学力の向上を主にねらいとした本校独自の活動。児童それぞれがめあてや課題をもってドリルや演算等に取り組む時間。正規時間外に20～25分間実施している）のさらに効果的に運用のあり方を検討する。

### 学力等把握のための学校としての取組

平成 15 年度学力向上フロンティア事業学力テスト

4 . 5 . 6 年生 国語・算数 11 月実施

考察をもとに、本校児童の実態や傾向・具体的な指導について、職員会議で提案する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 研究成果普及

平成 15 年度第 1 回伊那地区協議会（6/26）分科会にて、レポート発表

平成 16 年度公開授業研究会 開催年月日等の詳細は未定 於；富士見小学校

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15 年度からの新規校  14 年度からの継続校
- 【学校規模】  6 学級以下  7 ~ 12 学級  
 13 ~ 18 学級  19 ~ 24 学級  
 25 学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・T による指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無